

# 広島大学学術情報リポジトリ

## Hiroshima University Institutional Repository

Title	難波博孝 著書・論文・学術発表目録 : (2023年8月時点)
Author(s)	国語教育思想研究会,
Citation	国語教育思想研究 , 32 : 365 - 379
Issue Date	2023-12-01
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00054839">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00054839</a>
Right	
Relation	



## 難波博孝 著書・論文・学術発表目録 (2023年8月時点)

### 【著書】

#### 〈単著〉

- ◇『母語教育という思想——国語科解体／再構築に向けて——』世界思想社／2008年
- ◇『ナンバ先生のやさしくわかる論理の授業——国語科で論理力を育てる——』明治図書／2018年

#### 〈編著・監修〉

- ◇『子どもの文化を学ぶ人のために』川端有子・戸苅恭紀・難波博孝編著／世界思想社／2002年
  - \*「マンガの構造と子どもとの相互作用——「超現実的な力が働く、幼年向けマンガ」から見えること——」 pp. 19-31
  - \*「読書幻想を超えた、読書活動とその指導」 pp. 153-164
  - \*「「あらわす」文化を学ぶために」 pp. 185-190
- ◇『国語科授業改革双書 No. 1 楽しく論理力が育つ国語科授業づくり』難波博孝・三原市立木原小学校著／明治図書／2006年
- ◇『国語科授業改革双書 No. 2 文学体験と対話による国語科授業づくり』難波博孝・三原市立三原小学校著／明治図書／2007年
- ◇『国語科授業改革双書 No. 3 イメージの形成と共有によるコミュニケーションの授業づくり』難波博孝・福山市立湯田小学校著／明治図書／2007年
- ◇『臨床国語教育を学ぶ人のために』難波博孝編／世界思想社／2007年
  - \*「座談会 臨床国語教育の模索」 pp. 3-26
  - \*「私の臨床国語教育の歩み」 pp. 27-55
  - \*「臨床国語教育をすすめるために」 pp. 311-330
- ◇『国語科授業改革双書 No. 7 表現力・思考力も身に付く伝統的な言語文化の授業づくり』難波博孝・東広島市立原小学校著／明治図書／2009年
- ◇『国語科授業改革双書 No. 8 ジグソー学習を取り入れた文学を読む力の育成』難波博孝・尾道市立因北小学校著／明治図書／2010年
- ◇『文学の授業づくりハンドブック 第1巻 授業実践史を踏まえて——小学校・低学年編／特別支援編——』難波博孝編著／溪水社／2010年
  - \*「特別支援教育における文学教育」 pp. 144-181
- ◇『読書で豊かな人間性を育む児童サービス論』難波博孝・山元隆春・宮本浩治編著／学芸図書／2012年
  - \*「児童の読書力の把握」 pp. 37-51
  - \*「児童サービスの理念と目標」 pp. 200-210
  - \*「児童サービスの課題と展望」 pp. 223-232
- ◇『1日10分 言語力ドリル「書く」』難波博孝監修／第一学習社編／第一学習社／2013年
- ◇『1日10分 言語力ドリル「聞く・話す」』難波博孝監修／第一学習社編／第一学習社／2013年
- ◇『1日10分 言語力ドリル「読む」』難波博孝監修／第一学習社編／第一学習社／2013年
- ◇『特別支援教育と国語教育をつなぐ ことばの授業づくりハンドブック』浜本純逸監修／難波博孝・原田大介編／溪水社／2014年
  - \*「教師の話し方を考え直す——特別支援教育に必要な教育話法を探る——」 pp. 11-18
  - \*「おわりに——取り上げられた教材と本書の使い方——」 pp. 203-205

- ◇『1日10分 言語力ドリル入門「聞く・話す」』難波博孝監修／第一学習社編／第一学習社／2013年
- ◇『1日10分 言語力ドリル入門「読む・書く」』難波博孝監修／第一学習社編／第一学習社／2013年
- ◇『論理力 ワークノート』難波博孝監修／第一学習社編／第一学習社／2017年
- ◇『第三項理論が拓く文学研究／文学教育——高等学校——』田中実・須貝千里・難波博孝編著／明治図書／2018年
  - \* 「「舞姫」の教材研究」 pp. 118-128
  - \* 「「鏡」の授業構想」 pp. 233-243
  - \* 「第三項理論に基づいた授業の姿——問い続ける学習者を育てる——」 pp. 275-283
- ◇『詩とイメージの教育——理論と実践——』難波博孝・山元隆春・谷英次編著／広島大学附属東雲小・中学校国語科著／明治図書／2019年
- ◇『論理力 ワークノート ネクスト』難波博孝監修／第一学習社編／第一学習社／2020年
- ◇『第三項理論が拓く文学研究／文学教育——小学校——』田中実・須貝千里・難波博孝編著／明治図書／2023年
  - \* 「「スイミー」の授業構想」 pp. 56-70
  - \* 「「ヒロシマのうた」の授業構想」 pp. 215-230
  - \* 「小学校文学教材のジャンルと読みの目標」 pp. 265-278

#### 〈共著・分担執筆〉

- ◇『言葉』松川利広・加藤久雄編著／保育出版／1995年
  - \* 「談話」 pp. 211-214
- ◇『国語教育を学ぶ人のために』糸井通浩・植山俊宏編／世界思想社／1995年
  - \* 「国語教育学の内容としての言語学・国語学」 pp. 86-91
- ◇『言語技術教育第4号 この文学教材でこの言語技術を教える』日本言語技術教育学会編／明治図書／1995年
  - \* 「両者の論に対する共感と異議申し立て」 pp. 41-43
- ◇『子どもとひらく国語科学習材（音声言語編）』中渕正堯・国語教育探究の会著／明治図書／1998年
  - \* 「プライベート・コミュニケーションのためにできること——「地域性」の意識化が果たす役割——」 pp. 26-32
- ◇『〈新しい作品論〉へ、〈新しい教材論〉へ2』田中実・須貝千里編著／右文書院／1999年
  - \* 「「終わり」を消費させる「蠅」——教材としての限界——」 pp. 197-212
- ◇『読書論・読者論の地平』和田敦彦編著／若草書房／1999年
  - \* 「テキストと読者との対話のために——読者論と言語論の豊かな出会いに向けて——」 pp. 230-241
- ◇『言語論理教育の探究』井上尚美編／東京書籍／2000年
  - \* 「モジュール化した言語的自己の、複数の発達」 pp. 34-49
- ◇『第9巻 進んで本を読み読書に親しむ学習指導「読むこと1」』「生きてはたらく国語の力を育てる授業の創造」刊行会編／ニチブン／2000年
  - \* 「読書する力と習慣を育てる評価」 pp. 300-305
- ◇『神戸大学教授浜本純逸先生退官記念論集 国語科の実践構想——授業研究の方法と可能性——』井上一郎編／東洋館出版／2001年
  - \* 「新しい授業研究への模索」 pp. 236-256
- ◇『新しい教育課程の創造——教科学習と総合的学習の構造化——』日本教科教育学会編／教育出版／2001年
  - \* 「生涯発達と国語教育——ことばの学び生態史に向けて——」 pp. 92-103
- ◇『文学の力×教材の力——小学校編4年——』田中実・須貝千里編／教育出版／2001年

- \* 「「文学」を教材として授業することへの疑問——「白いぼうし」の場合——」 pp. 108-123
- ◇ 『国語科教育学研究の成果と展望』全国大学国語教育学会著／明治図書／2002年
  - \* 「新しい言語学と国語教育学研究」 pp. 497-506
- ◇ 『実験授業による授業改革への提案』全国大学国語教育学会編／明治図書／2002年
  - \* 「授業研究の方法を変えよう——「教師の意図」を超えるために——」 pp. 194-195
- ◇ 『〈新しい作品論〉へ、〈新しい教材論〉へ——評論編2——』田中実・須貝千里編著／右文書院／2003年
  - \* 「外側に立つ勇氣」 pp. 147-172
- ◇ 『特色ある学校づくりのための新しいカリキュラム開発 第2巻 教科の充実で学力を伸ばす』中野和光編著／ぎょうせい／2004年
  - \* 「書くことによる学び」 pp. 56-64
- ◇ 『「これからの文学教育」のゆくえ』田中実・須貝千里編著／右文書院／2005年
  - \* 「「思想科」の教材としての文学——あなたが心ひかれる文学作品に心ひかれる、そのわけの根底にある思想を見つめるために授業が用意される——」 pp. 253-274
- ◇ 『「学校の怪談」はささやく』一柳廣孝編著／青弓社／2005年
  - \* 「「学校の怪談」がなくなったあとで」 pp. 87-112
- ◇ 『児童文学研究、そして、その先へ〔下〕』宮川健郎・横川寿美子編／久山社／2007年
  - \* 「国語科授業を文学から解放しよう——現状把握と解放のためのロードマップ——」 pp. 9-33
- ◇ 『国語教育を学ぶ人のために』糸井通浩・植山俊宏編／世界思想社／2008年
  - \* 「国語教育学の内容としての言語学・国語学」 pp. 86-91
- ◇ 『浜本純逸先生退任記念論文集 国語教育を国際社会へひらく』記念論文集編集委員会編／溪水社／2008年
  - \* 「言語発達研究から学ぶ国語教育への示唆」 pp. 80-93
- ◇ 『教育方法37 現代カリキュラム研究と教育方法学——新学習指導要領・PISA型学力を問う——』日本教育方法学会編／図書文化社／2008年
  - \* 「カリキュラム全体における言語能力の形成の問題——言語能力の形成を考察するための観点——」 pp. 100-113
- ◇ 『新たな時代をひらく 小学校国語科教育研究』全国大学国語教育学会編著／学芸図書／2009年
  - \* 「学習者の実態とその把握」 pp. 30-33
- ◇ 『言語技術教育第20号 「この言語技術」で思考力・表現力が高まる』日本言語技術教育学会編／明治図書／2011年
  - \* 「「なぜ」とひたすら尋ねる論理力こそ——批評でも批判でもなく、問うこと——」 pp. 50-53
- ◇ 『言語技術教育第21号 新教材・伝統的な言語文化をどう教材化するか』日本言語技術教育学会編／明治図書／2012年
  - \* 「伝統は古くないから、こそ。ふたたび」 pp. 48-51
- ◇ 『言語技術教育研究 新しい授業の提案2 「習得と活用」を重視した授業』国語教育研究所編著／さくら社／2012年
  - \* 「学習指導要領から考える、読むことの授業づくりの理論」 pp. 38-44
- ◇ 『国語科教育学研究の成果と展望Ⅱ』全国大学国語教育学会編著／学芸図書／2013年
  - \* 「読むことの学習指導実践史研究」 pp. 185-192
- ◇ 『言語表現学の基礎と応用』表現学会編／清文堂／2013年
  - \* 「説明文テキストの顕在的構造と潜在的構造——母語教育のための分析——」 pp. 258-266
- ◇ 『国語科教育における理論と実践の統合』全国大学国語教育学会編／東洋館出版／2018年
  - \* 「思想研究としての国語教育授業研究——打ち続く困難の中で——」 pp. 15-18

- ◇『新たな時代の学びを創る 小学校国語科教育研究』全国大学国語教育学会編／東洋館出版／2019年  
\*「母語教育と国語科教育」 pp. 6-8
- ◇『あたらしい国語科教育学の基礎』山元隆春・難波博孝・山元悦子・千々岩弘一著／溪水社／2020年  
\*「説明的文章教育」 pp. 126-180
- ◇『文学授業のカンドコロ——迷える国語教師たちの物語——』助川幸逸郎・幸坂健太郎編著／岡田真範・難波博孝・山中勇夫共著／文学通信／2022年
- ◇『国語科教育学研究の成果と展望Ⅲ』全国大学国語教育学会編／溪水社／2022年  
\*「国語教育思想論に関する研究の成果と展望」 pp. 43-50

## 【辞典・事典】

- ◇『国語科重要用語 300 の基礎知識』大槻和夫編著／明治図書／2001年  
\*「一般言語学」 p. 26 / \*「応用言語学」 p. 27 / \*「言語社会学」 p. 28 / \*「心理言語学／言語心理学」 p. 30 / \*「言語哲学」 p. 31 / \*「語用論」 p. 45 / \*「認知言語学」 p. 52 / \*「生成文法」 p. 53 / \*「文章」 p. 243 / \*「段落」 p. 244 / \*「文体」 p. 245 / \*「レトリック」 p. 246 / \*「モダリティー」 p. 280
- ◇『国語教育辞典』（初版）日本国語教育学会編／朝倉書店／2001年  
\*「コード」 p. 171 / \*「読む力の発達」 p. 390
- ◇『国語教育辞典』（新装版）日本国語教育学会編／朝倉書店／2009年  
\*「コード」 p. 171 / \*「読む力の発達」 p. 390
- ◇『国語教育指導用語辞典』（第3版）田近洵一・井上尚美編著／教育出版／2004年  
\*「言語学」 pp. 316-317
- ◇『国語教育指導用語辞典』（第4版）田近洵一・井上尚美編著／教育出版／2009年  
\*「言語学」 pp. 316-317
- ◇『国語教育指導用語辞典』（第5版）田近洵一・井上尚美・中村和弘編著／教育出版／2018年  
\*「言語学」 pp. 330-331
- ◇『現代教育方法事典』日本教育方法学会編／図書文化社／2004年  
\*「読書アニメーション」 p. 283
- ◇『国語科重要用語事典』高木まさき・寺井正憲・中村敦雄・山元隆春編著／明治図書／2015年  
\*「言語教育」 p. 168 / \*「言語理論」 p. 239 / \*「テキスト」 p. 244

## 【学位論文】

- ◇「日本語における動詞の態（自他動性を含む）と形態及び素性，自制性（self-controllable）との関係の考察」1984年 文学修士（言語学） 京都大学
- ◇「テキストとしての説明的文章教材の研究」1990年 修士（教育学） 神戸大学
- ◇「説明文学学習指導の基礎論的研究——テキスト分析論・読解モデル論・言語発達論を中心に——」1999年 博士（教育学） 広島大学

## 【研究誌】

○『愛知県立大学文学部論集(児童教育学科編)』(愛知県立大学文学部・愛知県立女子短期大学紀要委員会)

\*「国語科の教科内容は何か(1)——あるテキストがわかるとはどういうことか——」1992年, 41号, pp. 53-67

○『演劇学論集 日本演劇学会紀要』(日本演劇学会)

\*「演劇的な教材と国語教育——平田オリザ氏の対話劇教材に関する考察——」2002年, 40巻, pp. 61-76

○『学部・附属学校共同研究紀要』(広島大学学部・附属学校共同研究機構)

\*「生きて働く力を育てる国語科学習指導の研究(4)」2001年, 29号, pp. 27-36(共同研究者: 吉田裕久・神野正喜・原正寛・河野順子・望月真)

\*「生きて働く力を育てる国語科学習指導の研究(5)」2002年, 30号, pp. 45-54(共同研究者: 吉田裕久・神野正喜・原正寛・望月真・桂聖)

\*「言語生活力の伸長をめざす国語科学習指導の研究(1)」2003年, 31号, pp. 69-78(共同研究者: 吉田裕久・神野正喜・原正寛・望月真・桂聖)

\*「言語生活力の伸長をめざす国語科学習指導の研究(2)」2004年, 32号, pp. 131-141(共同研究者: 吉田裕久・神野正喜・原正寛・望月真・長谷川みどり・桂聖)

\*「言語生活力の伸長をめざす国語科学習指導(3)」2005年, 33号, pp. 149-158(共同研究者: 吉田裕久・神野正喜・望月真・長谷川みどり・木下美和子)

\*「「言語生活力」の育成をめざす国語科教育課程編成の実証的研究(1)」2006年, 34号, pp. 265-274(共同研究者: 吉田裕久・神野正喜・望月真・長谷川みどり・木下美和子)

\*「「言語生活力」の育成を目指す国語科教育課程編成の実証的研究(2)」2007年, 35号, pp. 143-152(共同研究者: 吉田裕久・木下美和子・長谷川みどり・森澤真一・立石泰之)

\*「「言語生活力」の育成を目指す国語科教育課程の実践的研究(1)」2008年, 36号, pp. 181-190(共同研究者: 吉田裕久・木下美和子・青山之典・森澤真一・立石泰之)

\*「言語能力を育成する国語科授業づくり——言語特性に着目した読みの指導をとおして——」2009年, 37号, pp. 313-318(共同研究者: 吉田裕久・木下美和子・青山之典・立石泰之・永松陽子)

\*「読む力を育成する国語科授業づくり——書く活動を取り入れた読みの指導をとおして——」2010年, 38号, pp. 179-184(共同研究者: 吉田裕久・木下美和子・青山之典・立石泰之・永松陽子)

\*「読む力を育成する国語科授業づくり——〈読み〉とその変容を自覚させる学習をとおして——」2011年, 39号, pp. 207-212(共同研究者: 吉田裕久・青山之典・三藤恭弘・立石泰之)

\*「自覚的に読む力を育成する言語活動の展開」2012年, 40号, pp. 111-116(共同研究者: 三藤恭弘・青山之典・立石泰之・羽島彩加・吉田裕久)

\*「小学校における読書リテラシーを育成する国語科授業の開発」2015年, 43号, pp. 53-60(共同研究者: 羽島彩加・吉田裕久・谷本寛文・有川佐智子・山本陽子・谷栄次・羽場邦子・竹本文美)

\*「自立した読書人を育てる国語科授業の開発」2017年, 45号, pp. 33-42(共同研究者: 有川佐智子・間瀬茂夫・山本陽子・高瀬裕人・溝上大樹・谷栄次・羽場邦子・竹森文美)

\*「論理的思考力を育成する国語科授業の検証」2021年, 48号, pp. 87-96(共同研究者: 溝上大樹・間瀬茂夫・羽島彩加・山中勇夫・宮本隆・吉岡大泰・高橋菜由)

\*「論理的思考力を育成する国語科授業の発展——対象の論理と主体の論理を切り口にした理論と実践——」2023年, 50号, pp. 11-29(共同研究者: 羽島彩加・間瀬茂夫・溝上大樹・山中勇夫・廣口知世・丸田健太郎)

○『学校教育』（広島大学附属小学校学校教育研究会）

- \* 「「今生きていく力」と「未来に生きる力」を育てるために——国語科で考えなければならないこと——」2002年，1016号，pp.18-23
- \* 「学級集団のコミュニケーションはどうなっているか」2003年，1035号，pp.12-17
- \* 「原実践とともに——「外部」への「道」を歩む児童を育てる——」2003年，1037号，pp.32-35
- \* 「「説明」の持つ「生命力」に気づく授業——長谷川実践——」2004年，1047号，pp.32-35
- \* 「話し合い学習の更なる進化に向けて」2021年，1246号，pp.38-43
- \* 「文学教材の授業における「論理」——その意義——」2023年，1267号，pp.38-43
- \* 「説明文教材の授業における「論理」と「言論の場」」2023年，1268号，pp.66-71

○『教育学研究』（日本教育学会）

- \* 「ことばと学び」2011年，78巻，1号，pp.55-58（共同研究者：大津由紀雄，内田伸子，三森ゆりか，吉田成章）

○『言語文化教育研究』（言語文化教育研究会）

- \* 「国語科教育における実践研究の考え方と実際——「国語教育としての実践研究」というあり方——」2014年，12巻，pp.29-41

○『国語科教育』（全国大学国語教育学会）

- \* 「テキストとしての説明的文章の教材分析」1989年，36巻，pp.35-42
- \* 「「文の主題」の補充及び結束性獲得についての研究」1990年，37巻，pp.59-66
- \* 「多様な解釈を保証する教材分析——詩「りんご」の場合——」1994年，41巻，pp.43-50
- \* 「「言語活動の心内プロセスモデル」の検討——国語学力形成の科学的根拠の追求——」1997年，44巻，pp.145-154（共同研究者：牧戸章）
- \* 「言語活動の発達の契機と過程」1998年，45巻，pp.73-82（共同研究者：牧戸章）
- \* 「本当に必要なことばの力とは何か」1999年，46巻，p.14（共同研究者：牧戸章）
- \* 「説明的文章の読みの発達の検討——小学校高学年から中学校にかけての変化を中心に——」2002年，51巻，pp.26-33（共同研究者：間瀬茂夫・長崎伸仁・河野順子・植山俊宏）
- \* 「日台の教員および学生の文学の授業に関する意識の比較——広島県および宜蘭県を中心に——」2009年，66巻，pp.67-74（共同研究者：余亮閔）
- \* 「文学教育の公共性を担保するためのロードマップ——文学の私有性／文学研究の私有性／文学教育研究の私有性に抗しながら——」2010年，68巻，pp.9-10
- \* 「異なる共同体に属するはずの「研究者」ができることは何か」2012年，71巻，pp.107-111
- \* 「評論文読解指導の現状と課題——高等学校教員に対するフォーカスグループインタビューから——」2015年，77巻，pp.70-77（共同研究者：篠崎祐介，幸坂健太郎，黒川麻実）
- \* 「アクティブ・ラーニングに潜む欲望とその先」2017年，81巻，pp.9-10
- \* 「椅子取りゲームと根っこ」2021年，90巻，pp.8-10

○『国語科授業論叢』（学思会 広島大学教育学部難波博孝研究室）

- \* 「エンパワーメントのための読書に向けて」2009年，1号，pp.132-134
- \* 「今のままではコミュニケーション教育はできない——本当のコミュニケーション教育のために——」2010年，2号，pp.118-121

- \* 「学習指導要領から考える、読むことの授業づくり」2011年、3号、pp.1-8
- \* 「学習指導要領から考える、読むことの授業づくり（2）——文学教材編——」2012年、4号、pp.1-10
- \* 「学習指導要領から考える、書くことの授業づくり」2012年、5号、pp.1-9

○『国語教育研究』（広島大学教育学部国語教育会／広島大学教育学部光葉会）

- \* 「国語科教育研究における「授業研究」はどう行われまたどこに向かうべきか——学会誌の中での授業研究のありようとこれからの方向性——」2002年、45号、pp.52-67
- \* 「中学・高校の国語評価をどのように考えていくか——シンポジウムをふまえて——」2006年、47号、pp.78-85
- \* 「母語教育の教育内容の妥当性の担保について——特に説明文／評論文教材について——」2009年、50号、pp.47-56
- \* 「「国語教育としての実践研究」というあり方」2015年、56巻、pp.179-192
- \* 「U理論から考える深い学び——日台共通小学校説明文実践を通して——」2017年、58号、pp.36-44

○『国語教育思想研究』（国語教育思想研究会）

- \* 「論理／論証教育の思想（1）」2009年、1号、pp.21-30
- \* 「論理／論証教育の思想（2）——論理の教育および論証の妥当性について——」2010年、2号、pp.21-29
- \* 「論理／論証教育の思想（3）——テキストの観点から見た、論理／論証——」2011年、3号、pp.49-52
- \* 「論理／論証教育の思想（4）——論理と読むことの授業——」2012年、4号、pp.55-66
- \* 「近代（文学）と近代（教育）との相克」2015年、10号、pp.61-63
- \* 「未来の国語教育の方向性」2016年、12号、pp.11-14
- \* 「澤田英史の国語教育理論と実践の考察」2016年、13号、pp.13-47
- \* 「現在進行中の日本の教育改革について——特に国語科教育に注目して——」2017年、15号、pp.19-24
- \* 「「スイミー」の比較——2020年度版小学校国語科教科書相互と原典とを対象にして——」2021年、22号、pp.67-73
- \* 「国語教育思想論に関する2010～2021年の研究動向」2022年、25号、pp.69-125
- \* 「「深く読む」ことの一覧と分類」2023年、30号、pp.27-34

○『国語教育探究』（国語教育探究の会）

- \* 「説明文授業を根本から考える——通常読みから授業を見直す——」1997年、9号、pp.60-68
- \* 「これからの「文学」教育がめざすべきこと」1998年、11号、pp.73-78

○『国語年誌』（神戸大学国語教育学会）

- \* 「テキスト受容モデルの提案——科学科された教材分析を目差して——」1990年、9号、pp.96-107
- \* 「「生きている土」の教材分析——教材の構造的分析の実際——」1991年、10号、pp.32-44

○『国語の授業』（児童言語研究会）

- \* 「コミュニケーション能力を高める読みの授業のための教材分析（上）——学習主体の授業のためのことばと授業の理論——」1995年、129号、pp.74-79
- \* 「コミュニケーション能力を高める読みの授業のための教材分析（下）——学習主体の授業のためのことばと授業の理論——」1995年、130号、pp.70-75

○『私学研究論文集』(兵庫県私学総連合会)

- \* 「読む力を高める CAI を含んだ総合的方策(1) —— 「読む力を高めるコースウェア」の理論——」1987年, pp. 11-18

○『社会文学』(日本社会文学会)

- \* 「母語教育の一つの可能性に向けて——「tasha」と「ダブルバインド」を拒否していく——」2001年, 16巻, pp. 139-154

○『初等教育カリキュラム研究』(初等教育カリキュラム学会)

- \* 「「日常の論理」の教育のための準備——論証／説明／感化の論理の区別とその内実——」2014年, 2号, pp. 49-61
- \* 「小学校英語教育の未来——現状と今後のあるべき姿を考える——」2017年, 5号, pp. 81-116 (共同研究者: 柳瀬陽介, 朝倉淳, 本岡寛, 大津由紀雄)

○『児童の言語生態研究』(児童の言語生態研究会)

- \* 「児童の言語生態を追いかけて」2004年, 16号, pp. 21-22
- \* 「児童の言語生態研究会(児童の言語生態)理論と国語(母語)教育諸理論の統合試論」2018年, 18号, pp. 36-44

○『児童文学研究』(日本児童文学学会)

- \* 「帝国の玩具としての SAMBO——The Story of Little Black Sambo の成立当時の「意味」——」1995年, 28号, pp. 89-101 (共同研究者: 今井美都子)

○『児童文学論叢』(日本児童文学学会中部例会)

- \* 「読者反応とテキストの研究の必要性——読書指導研究の今後の方向性——」1996年, 2号, pp. 26-31

○『読書科学』(日本読書学会)

- \* 「「情動」に働きかける読み聞かせの実践——「排泄」をテーマにした読み聞かせのケーススタディ——」2015年, 57巻, 3-4号, pp. 89-100 (共同研究者: 稲田八穂)

○『日文協国語教育』(日本文学協会国語教育部会)

- \* 「とにかく、文学は、教材界の特権的な地位から降りてもらいましょう」1998年, 29号, pp. 15-23
- \* 「ここではないどこか(それは多分タブー)とこことを絶え間なく揺れ動くようにさせるために教育ができること」2016年, 43巻, pp. 51-54
- \* 「第三項理論「普遍化」のための覚書」2019年, 45巻, pp. 1-13

○『日本教科教育学会誌』(日本教科教育学会)

- \* 「国語科解体・再構築の方向性」2002年, 25巻, 3号, pp. 77-80
- \* 「<国語科の解体／再構築>から<教科再編>へ」2004年, 27巻, 3号, pp. 87-90

○『日本語学』(明治書院)

- \* 「臨床的なアプローチをどのように有効なものにしていくか——国語科授業研究を中心に——」2003年, 22巻, 3号, pp. 48-57

\*「国語教育研究に必要な語彙力——国語教育研究の世界に入るための関門として——」2018年, 37巻, 11号, pp. 42-49

○『日本文学』(日本文学協会)

\*「自動化された「物語」から逃れるために——国語の授業でなにをすべきか——」1996年, 45巻, 8号, pp. 37-46

\*「漸近線としての日本語・国語教育——「分裂した自己を統合する企て」への拒否——」1999年, 48巻, 1号, pp. 64-73

\*「文学と教育における公共性の問題——文学教育の根拠——」2003年, 52巻, 8号, pp. 1-35 (共同研究者: 松澤和宏・高木まさき・田中実)

\*「リテラシーは他を排除する——自己批評のための「戦略的同化」と「自己批評的流用」へ——」2013年, 62巻, 1号, pp. 57-67

\*「合言葉はF」2015年, 64巻, 8号, pp. 16-31

\*「第三項理論に拠る教育・授業——合言葉はF 続き——」2016年, 65巻, 3号, pp. 15-27

\*「「文学国語」をどうするか」2017年, 66巻, 3号, pp. 92-97

\*「「新しい実在論」と第三項理論」2018年, 67巻, 8号, pp. 18-29

○『表現研究』(表現学会)

\*「説明文テキストの顕在的構造と潜在的構造——母語教育のための分析——」1999年, 70号, pp. 9-17

○『兵庫國漢』(兵庫県高等学校教育研究会国語部会)

\*「教育改革の中における高校国語科授業の方向性」2019年, 65巻, pp. 73-87

○『Hyoron 未満:児童文学を読む』(名古屋児童文学評論の会)

\*「エンパワーメントのための読書に向けて」2008年, 10号, pp. 6-11

○『北研學刊』(広島大学北京研究中心)

\*「日中両国における国語教育の進展——読むことの教育に注目して——」2012年, 8巻, pp. 166-173

○『横浜国大国語教育研究』(横浜国立大学国語教育研究会)

\*「国語教科書の解体／再構築に向けて」2006年, 24号, pp. 1-9

○『両輪:国語教室の理論と実践』(神戸大学教育学部国語教育研究室)

\*「看護学校における作文教育の実践」1989年, 1号, pp. 42-54

\*「説明的文章の構造的分析」1990年, 3号, pp. 124-134

\*「説明文教材における「状況語句」の検討——メンタル・スペース理論に学ぶ——」1991年, 5号, pp. 111-118

\*「「出会い」をテーマにした授業作り——看護学校における「読書」の授業——」1991年, 6号, pp. 36-41

\*「向山氏の「言語技術」授業の考察——教育内容における問題点——」1993年, 9号, pp. 123-134

\*「テキストの難しさ——発達段階的諸相とその予想——」1993年, 10号, pp. 205-212

\*「コード解釈と推論解釈(1)——関連性理論による読みの授業の検討——」1995年, 15号, pp. 113-122

\*「コード解釈と推論解釈(2)——読みのサポートのために——」1995年, 17号, pp. 5-18

\*「コード解釈と推論解釈(3)——世界解釈のレッスンとしての文学——」1996年, 19号, pp. 23-32

- \* 「説明文を中心教材とした授業の構想（1）——思考を育てる授業の構想（その1）——」1997年，22号，pp. 8-24
- \* 「説明文を中心教材にした授業の構想（2）——授業を作るためのテキスト理論（その1）結束性について——」1997年，23号，pp. 74-83
- \* 「国語教育研究をどう構築しなおすか——四つの研究部門による再出発——」1998年，25号，pp. 1-10
- \* 「説明文指導研究の現状と課題」1998年，26号，pp. 6-15
- \* 「説明文読解過程研究の現状と課題——心理学を中心に——」1999年，28号，pp. 48-56
- \* 「《解題》浜本純逸先生の語彙指導・説明的文章の学習指導」2001年，33号，pp. 50-52
- \* 「「ことばの学び」生態史研究に向けて」2001年，33号，pp. 438-449
- \* 「高等学校三年『俘虜記』（大岡昇平）」2001年，34号，pp. 186-201
- \* 「目指すべき読みの力とは何か——国際および日本の調査から考える——」2004年，42号，pp. 585-595

○『早稲田日本語教育学』（早稲田大学大学院日本語教育研究科）

- \* 「言語の教育への絶望と希望」2011年，9号，pp. 79-84

## 【月刊誌】

○『学校マネジメント』（明治図書）

- \* 「“なぜ特色ある学校”が必要なのか」2009年，626号，p. 9

○『教育科学国語教育』（明治図書）

- \* 「創造的な情報産出能力の育成のために」1995年，508号，pp. 41-46
- \* 「国民文学論と文学教育論議」1995年，510号，pp. 52-55
- \* 「読書指導研究が見失っているもの」1996年，528号，pp. 115-116
- \* 「日本の読むことの授業の三つの不幸」2005年，656号，pp. 13-16
- \* 「書店に行こう！」2006年，666号，pp. 11-13
- \* 「授業の裏わざ・こつ，そして……」2006年，670号，pp. 11-13
- \* 「つまずきを適切に判断する」2006年，671号，pp. 11-13
- \* 「論理ってわがままだから，こそ。」2006年，674号，pp. 14-16
- \* 「書評『思考力育成への方略〈増補新版〉』（井上尚美著）」2007年，683号，P. 96
- \* 「書評『小学校国語科P I S A型読解力向上の学習問題と解説』（小森茂編）」2007年，686号，p. 97
- \* 「全員参加の職員室にて」2008年，688号，pp. 11-13
- \* 「バランスとアンバランスの混淆——小学校学習指導要領をみる——」2008年，694号，pp. 54-56
- \* 「ジャンル意識を育てて記述力を伸ばす」2008年，700号，pp. 9-12
- \* 「読み取ることは推論することである」2009年，703号，pp. 9-12
- \* 「まずクリアーに書け」2009年，704号，pp. 68-70
- \* 「教師研修が成功するポイントとその思想」2009年，708号，pp. 113-115
- \* 「主張を批判せず，理由を尋ねよう」2009年，711号，pp. 8-10
- \* 「文学を読む授業のための戦略」2009年，712号，pp. 107-109
- \* 「三要素で考える「読書力」」2010年，720号，pp. 20-22
- \* 「「探究」から「習得」「活用」へ」2010年，721号，pp. 5-7

- \* 「国語教育人物誌(第231回)広島県」2010年, 724号, p.101
- \* 「目標をしっかりと定めた書くことの授業の評価」2010年, 725号, pp.53-55
- \* 「戦略的な学級文庫の設置を」2010年, 727号, pp.20-23
- \* 「教師に媚びさせない」2010年, 728号, pp.8-10
- \* 「アクティブ・リスニングの力を身につけよう」2010年, 729号, pp.8-10
- \* 「伝統は古くないから,こそ」2011年, 733号, pp.14-16
- \* 「書評 『【DVD付】授業マニュアル 小論文の書き方指導』(市毛勝雄著)」2011年, 734号, p.99
- \* 「「論理」とはなに？」2011年, 735号, pp.117-121
- \* 「見える「論理」／見えない「論理」」2011年, 736号, pp.117-121
- \* 「「見えないつながり」と「論理」」2011年, 737号, pp.117-121
- \* 「「論理」と「文脈」」2011年, 738号, pp.117-121
- \* 「論理と思考力／表現力／文章構成」2011年, 739号, pp.117-121
- \* 「ツールミンモデルにご用心！」2011年, 740号, pp.117-121
- \* 「三角ロジックには,さらにご用心！」2011年, 741号, pp.117-121
- \* 「頭でわかる,心でわかる」2011年, 742号, pp.117-121
- \* 「妥当性／納得／説得」2011年, 743号, pp.117-121
- \* 「「森林のおくりもの」で考える(1)——論理的に読む意味——」2012年, 744号, pp.117-121
- \* 「「森林のおくりもの」で考える(2)——「森林のおくりもの」の論理性——」2012年, 745号, pp.117-121
- \* 「「森林のおくりもの」で考える(3)——論理力育成の授業づくり——」2012年, 746号, pp.117-121
- \* 「授業実態との不整合」2013年, 765号, p.97
- \* 「もっと「百人一首」を選べ！」2013年, 768号, p.5
- \* 「わが県の国語ソムリエ(第47回)広島県」2016年, 795号, p.127
- \* 「ジグソー学習とは」2016年, 796号, pp.110-113
- \* 「国語科読むことのジグソー学習」2016年, 797号, pp.110-113
- \* 「学年内ジグソー学習とは」2016年, 798号, pp.110-113
- \* 「クラス内ジグソー学習とは」2016年, 799号, pp.110-113
- \* 「小学校低学年「読むこと」のジグソー学習の実際」2016年, 800号, pp.110-113
- \* 「小学校中学年「読むこと」のジグソー学習の実際」2016年, 801号, pp.110-113
- \* 「小学校高学年「読むこと」のジグソー学習の実際」2016年, 802号, pp.110-113
- \* 「中学校「読むこと」のジグソー学習の実際」2016年, 803号, pp.110-113
- \* 「国語科で創造的・論理的思考を育成するためにすべきこと——「深い学び」とはなにか,ちゃんと考えようよ——」2016年, 804号, pp.20-23
- \* 「高等学校「読むこと」のジグソー学習の実際」2016年, 804号, pp.110-113
- \* 「「書くこと」のジグソー学習の実際」2017年, 805号, pp.110-113
- \* 「「話すこと・聞くこと」のジグソー学習の実際」2017年, 806号, pp.110-113
- \* 「ジグソー学習のまとめとアクティブ・ラーニング」2017年, 807号, pp.110-113
- \* 「わが県の国語ソムリエ(第99回)広島県」2020年, 847号, pp.126-127

○『月刊国語教育』(東京法令)

- \* 「言語の力の基礎・基本は経験である」1997年, 16巻, 13号, pp.34-37
- \* 「「主体的な情報活用」能力を育てるために——評論文・論説文教材で何ができるか——」2001年, 21巻, 9号, pp.24-27

- \* 「研究会通信 臨床国語教育研究会」2002年, 21巻, 13号, pp.74-76
- \* 「広島大学大学院難波博孝研究室とそのネットワーク」2009年, 29巻, 2号, pp.54-56

○『月刊国語教育研究』(日本国語教育学会)

- \* 「西尾実を読み直す」1993年, 255号, pp.28-29
- \* 「経験を培い思考を育成する説明文指導を目指して」1996年, 294号, p.33
- \* 「言語活動を支えるメタ認知——最近の研究から見えてくるもの——」1997年, 299号, pp.48-53
- \* 「「伝え合う」ために教師がすること」2002年, 366号, pp.62-63
- \* 「材」としての演劇の現状と可能性」2005年, 395号, pp.4-9
- \* 「ことばの力を育てる国語教室の創造」2006年, 414号, pp.2-3 (共同執筆: 山元隆春)
- \* 「「劇音読」のすすめ——劇化の前にしてほしいこと——」2010年, 464号, pp.34-37
- \* 「読み聞かせ——一人舞台としての。——」2014年, 509号, pp.28-31

○『現代教育科学』(明治図書)

- \* 「系統主義の幻 経験主義のまやかし——今必要な〈政治〉へのまなざし——」2010年, 647号, pp.8-10
- \* 「国語科と他教科で役割を分担する」2011年, 652号, pp.8-10
- \* 「次へ」2012年, 666号, p.78

○『現代のエスプリ』(至文堂)

- \* 「国語教育とメタ認知」2008年, 497号, pp.192-201

○『実践国語研究』(明治図書)

- \* 「言語活動とは何かわかっている学校こそ伸びる」2010年299号, pp.13-14
- \* 「カナダ——教師の最も得意なことを言語活動に——」2012年, 310号, pp.68-69

○『授業研究21』(明治図書)

- \* 「「総合的な学習の時間」の位置付けと「学力」との関わり」2001年, 528号, pp.17-18

○『授業力・学級統率力』(明治図書)

- \* 「あなたが伸びるために必要なこと」2010年, 3号, p.3
- \* 「見られる体験 見せる工夫」2010年, 5号, p.8

## 【学術発表 (要旨)】

○『国語科教育研究』全国大学国語教育学会

- \* 「説明的文章教材の構造的分析」1990年, 78巻, p.18
- \* 「なぜ読めないか——言語から考える——」1991年, 80巻, p.17
- \* 「西尾実の主題論の可能性」1991年, 81巻, p.22
- \* 「「言語技術」教育批判: 教育内容における問題点」1992年, 82巻, p.14
- \* 「コード解釈と推論解釈——言語的側面から見た国語科の教育内容——」1994年, 87巻, p.69
- \* 「説明的文章の読みにおける論理的認識力の発達 (1) ——概念装置形成の観点から——」1995年, 88巻,

p. 5 (共同研究者：植山俊宏)

- \* 「説明的文章の読みにおける論理的認識力の発達(2)——問題構造概念の仮説とその検証——」1995年, 89巻, p. 47 (共同研究者：植山俊宏)
- \* 「「言語活動の心内プロセスモデル」の検討——国語学力形成の科学的根拠の追究——」1996年, 91巻, p. 22 (共同研究者：牧戸章)
- \* 「思想・記述・説明・実践の各研究分野の峻別と再統合の必要性」1997年, 92巻, p. 41
- \* 「言語活動の発達の契機と過程」1997年, 93巻, p. 30
- \* 「言語能力構造の発達様式Ⅰ——理解のばあい——」1998年, 94巻, p. 41
- \* 「本当に必要なことばの力とは何か」1998年, 95巻, p. 34 (共同研究者：牧戸章・吉川芳則・田村泰宏・長澤貴・三浦和尚)
- \* 「「ことばの学び」生態史研究Ⅰ」1999年, 97巻, pp. 74-75 (共同研究者：牧戸章)
- \* 「「ことばの学び」生態史研究Ⅱ」1999年, 97巻, pp. 76-77 (共同研究者：牧戸章)
- \* 「孤立と引き裂かれの「授業研究」——学会誌の中で授業研究はどう行われ、そしてどこに向かうべきか——」2000年, 98巻, pp. 126-129
- \* 「第一次の出会い——したたかな主体を立ち上げるための共同授業研究——」2000年, 99巻, pp. 120-123
- \* 「説明的文章の読みの能力発達の検討——小学校高学年から中学校1・2年生にかけての変化を中心に——」2000年, 99巻, pp. 136-139 (共同研究者：間瀬茂夫・植山俊宏・河野順子・長崎伸仁)
- \* 「共犯と裏切りの共同授業研究」2001年, 101巻, pp. 126-129
- \* 「国語科授業におけるコミュニケーションモード」2002年, 102巻, pp. 134-137
- \* 「国語科授業研究への臨床的アプローチ」2003年, 104巻, pp. 166-167 (共同研究者：長澤貴・牧戸章)
- \* 「国語科授業研究の課題と方法——臨床的アプローチの方法と課題——」2004年, 106巻, pp. 166-167
- \* 「教科書教材を読むことに意味はあるのか——「全体を読む」ために——」2005年, 108巻, pp. 21-22
- \* 「教科有用性アンケート調査から見えること——国語科解体／再構築の足がかりとして——」2006年, 110巻, pp. 53-55
- \* 「提案授業のイメージ——国語科再編をどこかにみながら——」2006年, 110巻, p. 227
- \* 「台日の教員及び学生の意識の比較——文学教材及び児童文学をめぐって——」2007年, 113巻, pp. 81-82
- \* 「メタ教科／領域としての「論理」の内容・目標・評価——学習指導要領・井上尚美・宇佐美寛などに見られる混乱をどう乗り越えるか——」2009年, 116巻, p. 170
- \* 「異なる共同体に属するはずの「研究者」ができることは何か」2009年, 117巻, pp. 147-148
- \* 「論理／論証教育の思想——教材に即して考える——」2009年, 117巻, p. 278
- \* 「論理・論証の妥当性について」2010年, 118巻, pp. 201-202
- \* 「文学教育の可能性を問う」2010年, 118巻, p. 165 (共同研究者：宮川健郎・丹藤博文・府川源一郎)
- \* 「言論の場から考える, 文章の論理／論証」2010年, 119巻, pp. 172-173
- \* 「論理と感情」2011年, 120巻, pp. 79-80
- \* 「コミュニケーション能力育成のための演劇的方法」2012年, 122巻, pp. 387-388
- \* 「論理と読むことの授業」2012年, 122巻, pp. 79-80
- \* 「説明の論理 感化の論理」2012年, 123巻, p. 101
- \* 「現行学習指導要領及び教科書の説明文教材に関する学習目標の理論的研究——論理との関わりも考えながら——」2013年, 124巻, p. 49
- \* 「言語教育と生きること」2013年, 125巻, pp. 453-456 (共同研究者：細川英雄・柳瀬陽介・原田大介・永田麻詠・佐藤慎司)
- \* 「国語教育における追読の現代的意義——テキストシャドーイングとの関連において——」2014年, 126巻,

pp. 133-134 (共同研究者：妹尾知昭)

- \* 「こわれたメディアとしての説明的文章教材——言論の場からみる、その問題と克服の方向——」2014年、126巻、p. 229
- \* 「グループインタビューによる高等学校教員の意識調査—評論文読解指導の意義と課題をテーマとして—」2014年、127巻、pp. 209-212 (共同研究者：篠崎祐介・幸坂健太郎・黒川麻実)
- \* 「「日常の論理」の教育をトポスから考える——「三角ロジック」的国語科読むことの授業の問題点と克服——」2014年、127巻、pp. 117
- \* 「伝統的な言語文化に興味をもつ授業づくり——第4学年「どっちの漢字？一同訓異字」の授業実践から——」2015年、128巻、pp. 295-298 (共同研究者：竹森文美)
- \* 「思想研究としての国語教育授業研究——打ち続く困難の中で——」2015年、128巻、pp. 185-186
- \* 「説明文読者の論理・認識の様相——小中高学習者への調査から——」2016年、130巻、pp. 269-272 (共同研究者：篠崎祐介・青山之典・吉川芳則・幸坂健太郎・宮本浩治)
- \* 「アクティブ・ラーニングに潜む欲望とその先」2016年、131巻、pp. 275-278
- \* 「小中高の論理教育カリキュラム策定のための基礎研究(1)——理論的枠組みの構築——」2017年、132巻、pp. 77-78 (共同研究者：篠崎祐介・青山之典・吉川芳則・幸坂健太郎・宮本浩治)
- \* 「小中高の論理教育カリキュラム策定のための基礎的研究(2)——実態調査——」2017年、132巻、pp. 79-82 (共同研究者：篠崎祐介・青山之典・吉川芳則・幸坂健太郎・宮本浩治)
- \* 「高等学校文学教育のこれから——文学研究に基づいた文学教育——」2017年、133巻、pp. 427-429 (共同研究者：田中実・須貝千里・齋藤知也・中村龍一)
- \* 「中国語圏における中等国語教育の現状——「2018 中學國語文師資培育與教學實務國際交流論壇」の報告——」2018年、134巻、p. 145
- \* 「根っこを育てる国語教育——第三項理論と児言態理論——」2019年、136巻、p. 69
- \* 「国語教育の多層性①改正入管法を受けて、子どもたちの言語教育をどう保証していくか——コーディネーターから——」2019年、137巻、p. 189
- \* 「古典の学びを国語科教育学はどのように捉えるのか」2021年、140巻、pp. 93-94 (共同研究者：藤森裕治・前田雅之・三上英司・内藤一志・菊野雅之)
- \* 「「ヒロシマのうた」を「深く読む」」2021年、141巻、p. 161
- \* 「“私たち”は学習者のどのような読みを論理的だとみなすのか——国語科論理教育研究者のセルフスタディ——」2022年、142巻、pp. 233-236 (共同研究者：幸坂健太郎・青山之典・吉川芳則・宮本浩治・篠崎祐介・本渡葵)
- \* 「小学校における「深く読む」ことについての紙とデジタルによる比較調査——特に質的な部分に注目して——」2022年、142巻、pp. 33-36 (共同研究者：黒川麻実・幸坂健太郎・佐藤宗大・篠崎祐介・永井ほのり・森美智代・本渡葵)
- \* 「紙とデジタルの読解比較調査報告——「小学校国語科におけるデジタル端末で「深く読む」ための調査・実践研究」中間報告——」2022年、143巻、pp. 275-277 (共同研究者：黒川麻実・菅谷克行・豊福晋平)

○『日本教育学会大会研究発表要項』(日本教育学会)

- \* 「言語の教育の希望と絶望」2010年、69巻、pp. 280-281

## 【書評】

○『国語科教育』（全国大学国語教育学会）

\* 「渡辺哲男著『「国語」教育の思想——声と文字の諸相——』2012年，71巻，pp.62-64

○『教育方法学研究』（日本教育方法学会）

\* 「阿部昇著『文章吟味力を鍛える——教科書・メディア・総合の吟味——』2005年，30巻，pp.134-136

\* 「池田久美子著『視写の教育—〈からだ〉に読み書きさせる』2013年，38巻，pp.121-123

○「日本文学」（日本文学協会）

\* 「高木まさき著『「他者」を発見する国語の授業』2001年，50巻，12号，pp.76-77

\* 「田近洵一著『創造の〈読み〉——文学の〈読み〉の再生を求めて』2014年，63巻，1号，pp.112-114

○「両輪：国語教室の理論と実践」（神戸大学教育学部国語教育研究室）

\* 『「テキスト言語学入門」から学ぶもの』1989年，2号，pp.120-124

## 【付記】

本目録の作成においては、北海道教育大学教職大学院生の永井颯人氏にご尽力いただきました。ここに記して感謝申し上げます。なお、本目録の記載情報の正誤に関する責任は、編集者（幸坂）にあることを申し添えます。